観光地マーケティングを実践

～下呂温泉のブランディング戦略とは～

特別インタビュー

全国的な国内観光ブームや訪日観光旅行が爆発的な伸びを見せる中、観光マーケティングの実践で観光客誘致に成功している下呂温泉（岐阜県下呂市）。下呂温泉観光協会の取り組みを昨年6月に就任した滝康洋・下呂温泉観光協会長（水明館社長）に今年度の下呂温泉の施策と今後の戦略について聞いた。

滝　康洋 氏
（一社）下呂温泉観光協会長

――昨年度の観光協会長就任からおよそ1年半。今年度の状況は

滝　観光客数は10月までで前年度105・8%。6月だけがマイナスで4月、5月、7月、8月、9月、10月とプラスとなっている。10月までで3万3千人増。一昨年と比べても1万2千人多い。

プラス要因としては、気候が比較的良かったこと、各旅館の営業力の向上、適切なキャラバン、インバウンドの増加が挙げられる。インバウンドは、全国的な上昇傾向と同様に下呂でも急上昇した。台湾、香港、タイからの観光客が多い。前年度比236・4%で推移している。下呂ではインバウンドのシェアは観光客全体の5%程度でよいと考えていたが、現状で8%。もしかすると10%になるかもしれない。国内客と同じ料金水準での宿泊なので、単価も悪くない。現状、時期によっては、断っている外国人団体客もあると聞いている。下呂の場合は、各旅行会社が下呂の旅行商品を造成して販売してくれているので、実績に現れやすい。各旅館や観光協会の営業の成果だ。下呂の各旅館、観光協会の今では当時と環境や価値観、ニーズも変わっている。募集型の団体旅行でも2名1室利用と考えてまちがいはない。

観光地マーケティングで、改めて思うのは、観光協会は行政と異なり既存の施設数やキャパで観光客数のアップを目指さなければならない。

団体客の質も重要だ。例えば宴会のある団体。飲食や土産物などの波及効果が大きい。宴会のある団体に絞った支援や補助制度の創設や既存制度の利用も考えていきたい。

次に1年を通じての観光客数の動向。下呂では8月の観光客数が1番多い。今年度は11万2千人。11万2千人を受け入れることが可能であることから、年間では単純に133万4千人受け入れ可能と判断できる。観光客が減少している。また、首都圏からの団体観光客の誘致数で観光協会の目標は年間120万人。これも単純に1カ月10万人が目標。下呂で10万人を超えるのは、8月、11月、3月。6月が一番低い。シーズン性もあるので、個人の観光客が少ない6月の平日にMICEを誘致するのが良いと考えている。下呂の各旅館、観光協会の今後の戦略について聞いた。

インバウンドは予想を超え倍増
MICE誘致でオフ期対策が可能

――昨年度の観光協会長就任からおよそ1年半。今年度の状況は

滝　観光客数は10月までで前年度105・8%。6月だけがマイナスで4月、5月、7月、8月、9月、10月とプラスとなっている。10月までで3万3千人増。一昨年と比べても1万2千人多い。

プラス要因としては、気候が比較的良かったこと、各旅館の営業力の向上、適切なキャラバン、インバウンドの増加が挙げられる。インバウンドは、全国的な上昇傾向と同様に下呂でも急上昇した。台湾、香港、タイからの観光客が多い。前年度比236・4%で推移している。下呂ではインバウンドのシェアは観光客全体の5%程度でよいと考えていたが、現状で8%。もしかすると10%になるかもしれない。国内客と同じ料金水準での宿泊なので、単価も悪くない。現状、時期によっては、断っている外国人団体客もあると聞いている。下呂の場合は、各旅行会社が下呂の旅行商品を造成して販売してくれているので、実績に現れやすい。各旅館や観光協会の営業の成果だ。下呂の各旅館、観光協会の今後の戦略について聞いた。

湯けむり横丁にぎわいバザール

いバザール、吉祥寺アンテナショップ、地域活性化インターンシップ受入事業だ。

温泉街の中心にある市有地が整備され、そこで湯けむり横丁にぎわいバザールを開催してる。

観光客に食べ歩きやクラフト体験をしてもらい好評だ。飲食（軽食類に限る産品）、特産品、木工品、装飾品、菓子類、アクセサリー、絵画などを販売。軽食としては、飛騨牛の牛串、焼き鳥、クレープ、たい焼き、たこ焼きなどを販売している。この取り組みは、購入者にアンケートも行っており、下呂にあってほしい施設や、サービスをたずねている。上位は大型温泉施設、常設の飲食物産の拠点施設、カフェ。4位以下の結果も分析している。概ね上位は予想どおりだが、観光協会内や下呂市への新規事業の提案として、アンケート結果は根拠となり説得力も高くなる。

吉祥寺アンテナショップも首都圏の下呂の旅行商品を扱っている旅行会社との接点となる拠点としてや、下呂や岐阜の物産の販売データが取れている。

市有地に常設の飲食や物産、着地型旅行のツアーセンターのある拠点施設の「湯けむり横丁」の建設の計画案がある。今回のデータもこの施設に活かしていきたいと考えている。下呂のおやつや食べ歩きのブランド化を目指したい。

計画案の中で最も注目してもらいたいのが、大型の温泉施設、広場、2次アクセスの拠点（バスターミナル）をつくる整備案。下呂駅からのアクセス改善や旧下呂町内と下呂市内広域の観光地を結ぶ2次アクセスも整備される案で、下呂にランドマークが誕生することにもなる。温泉と健康をテーマに温泉施設や広場を活用したプログラムなども整備したいと考えている。

観光の力を最大限に生かしたまちづくりが下呂にとっては重要だ。

早ければ「湯けむり横丁」は2年後、大型温泉施設は3年後のオープンを目指す計画案となっており、東京オリンピックに間に合う。

宿泊温泉地から滞在型温泉地に移行するのが全国的な課題だろう。この2施設は下呂にとって、そのきっかけになると考えている。

岐阜県、下呂温泉を意識してもらいたい。

――地域活性化インターンシップ受入事業は

滝　学生の目線で、どちらかといえば、下呂市内広域の観光資源を視察してもらい、観光プランを提案してもらった。旧下呂町以外の地域の旅行商品化という狙いがある。9月13日～18日で実施した。12月には、東海じゃらんに掲載されるほか、研修の模様はNHKや地元メディアに紹介されPR効果もあった。学生が朝3時まで寝ずに考えてくれたプランを無駄にしないようにと観光協会内で話している。この事業は国の進める観光フィルシリテーターの育成にもつながっており、重要と考えている。また学生から、2次アクセスが必要という意見が上がってきた。こういうことも地元の意見だけでなく外部からの声として、得たことで行政に提案しやすくなる。今年度は冬商品だったので、次年度は夏商品での実施を予定している。

観光協会としては、ローカル線の活用も検討したい。下呂市内には、JRの駅が8駅ある。中山七里に代表される車窓はトップクラスの眺め。駅もそれぞれ個性的だ。

――次年度の取り組みや課題は

滝　国内客に関しては、ふるさと旅行券で獲得できた新規客をリピーターにしていきたい。

観光地マーケティングのデータを見ながら、変化に対応し、マンネリ化はしない。新しい情報に対処する。国内へのキャラバンを充実させている。訪問することで、観光情報の提案だけでなく、国内市場の情報収集や、信頼関係の構築にも役立つ。訪問箇所も20から30に増やしている。

下呂の中では、大規模より、中小規模旅館が比較的受け入れに余力がある。

国内客、インバンドともに下呂温泉旅館協同組合に相談してもらうと、空き状況がわかったり、分宿などの相談に乗ってもらえる。そういうこともっとアピールしていきたい。

もうひとつ面白い情報がある。地元のボランティアガイドの方で下呂温泉が織田信長ゆかりの温泉であることアピールすべきだという声もある。健康に恵まれた織田信長については、湯治の記録がなかったが近年、下呂温泉に織田信長と織田軍が訪れた記録が見つかった。歴史ファンなどの中では、よく知られる史実となってきている。これも歴史をテーマにした下呂の新しい観光資源になるのではと期待している。

下呂温泉合掌村

地域活性化インターンシップの様子

吉祥寺のアンテナショップ

世界一の花火師による下呂温泉の花火

昨年7月にハウステンボスで開催された第6回世界花火師競技会で、下呂温泉の花火イベントを担当する会社が世界1になった。下呂温泉では、夏の下呂温泉まつりをはじめ、クリスマスのある12月、冬季に花火イベントが開催される。とくに下呂温泉花火ミュージカルは、コンピュータを駆使し下した特殊演出花火。最新のヒット曲や往年の名曲など、さまざまな音楽に合わせて華麗に打ちあがる音楽と光のライブショーとなっている。

★下呂温泉花火ミュージカル冬公演

12月の各土曜日（24日はクリスマス特別公演）

冬の澄み切った夜空に、音楽に併せて華麗に花火が舞い踊る。

20時～　約15分間。クリスマス特別公演は約30分間。

★冬の下呂温泉花火物語

2016年1月9日～3月26日の毎土曜日。新春、節分、バレンタイン、合格祈願など、毎週テーマに併せた演出あり（音楽なし）

※予告なく変更中止となる場合がある。

（問）（一社）下呂温泉観光協会　TEL：0576-24-1000

温泉でコンベンション
～助成金利用のススメ～

下呂交流会館アクティブ

下呂温泉を中心とする下呂市内には、全体で約1万人の収容能力を持つ宿泊施設を有し、本格的なMICE（ミーティング・インセンティブ・コンベンション・イベント）の受け入れを行っている。メイン施設である「下呂交流会館」は、本格的なアリーナ（体育館）とコンサートホールが併設する複合施設。オープン以来さまざまなコンサートやスポーツ大会・トークショー・寄席などが開催されており、最大で3千名規模のコンベンションが可能。本施設の利用で助成金制度を申請する団体が増えている。

※コンベンション …… 大会・会議・学会・研究会・研修・合宿など。
但し営利目的のコンベンション、政治団体・宗教団体またはそれに類する団体に関係しないもの。

対象となる条件

①主たる会場が下呂市内の会議施設等であり、2時間以上のコンベンションが開催される事。

②下呂市内での宿泊を伴う事。（コンベンション参加による宿泊であり宿泊施設を利用する事）

③コンベンション開催前に助成金支給の申請（別紙様式）がなされる事。

※コンベンション参加者宿泊人数は、コンベンション一開催期間の単日ごとの宿泊について区分する。なお、連泊を伴うコンベンションで、単日ごとの宿泊人数が表中のコンベンション参加者宿泊人数に達しない場合は、開催コンベンション期間の総宿泊人数（延べ宿泊人数）によって区分する。

※平成27年度の助成金申請の締切は、平成27年12月末まで。
その他、詳細については同ビューローに要問い合わせ。

■問い合わせ先下呂市コンベンションビューロー事務局　TEL：0576-23-0070

コンベンション参加者宿泊数（単日あたり）	助成金額
30人～49人	30,000円
50人～99人	50,000円
100人～199人	100,000円
200人～299人	140,000円～209,300円
300人～399人	210,000円～279,300円
400人～	280,000円